



左上：伐採木を燃やすが、生木の着火は手こずる
 右上：軽トラいっぱいワラ(全部で5台分)を積む
 左下：伐採木をストーブ用の薪に
 右下：幼木にワラを敷いて乾燥と凍害防止



網倉さんのおにぎり

山梨県の南西部、市川三郷町で夫婦でお米を作っている網倉さんのお米はつやつやほっこりで噛むほど甘いです。そのおにぎりは塩・にぎり加減ともに絶品です。かつぬま朝市で出店者として知り合ってから10年近くなるでしょうか。このたびキッチンカーを導入した網倉さんに、果物シーズン中カノハタ売店にも来てもらいました。今後出店はインスタで告知していきます。フルーツ公園に来る皆さん、必食ですよ！

自家製アーモンド 突然ですが、アーモンドってどんな樹かご存知ですか？カノハタにはアーモンドの樹が5本ありますが、スタッフも知る人ぞ知るという存在です。なぜならアーモンドは花も樹も実もほぼモモ。すっかり畑の中で同化しています。違いは食べる部分です。果肉を食べるモモに対し、果肉の中にある硬い殻を割ってようやく出てくるのがアーモンド(種)です。ちなみに生のアーモンドは杏仁豆腐の味がしますよ。



家族それぞれ

2024年、カノハタ家もそれぞれ年を重ねました。長男は中学最後の年の夏、前年に続き西関東吹奏楽コンクールに進むことができました。高校でもまた吹奏楽でチューバを続けたいそうです。いや、その前に受験ですが…。次男はラグビーを始めてちょうど1年がたちました。最初はスクラムを組んでは首が痛いと言っていたのですが、今は広い芝の上を走りまわって少しずつ慣れてきています。ガッツリ体形に見合う強いメンタルを身につけて欲しいです。さて、我が家の年末は掃除と言っても片付けが中心になりますが、2階は梁がむき出しのため、ここだけは溜まるほこりをそうじします。ストーブの煙突掃除とともに、高いところへ上がるアトラクション的行事です。そして園主妻は夫の農業に合流して10年が経ち(あつという間の10年でした)、年末には一から始めた農業大学校の仲間たちと祝うことができました。農業スタイルはみな違いますが、同じような悩みや喜びを分かち合うことができる、心強い仲間たちです。



長男吹奏楽コンクール出場



次男ラグビー始めました



年末恒例梁そうじ



園主妻、就農10年！

新しい年の始まり。あらゆるものが循環しています。

2025年、新しい年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。「カノハタ通信」は、畑の様子や日々の出来事を年に2回のペースでゆくりとお届けしています。

葡萄の収穫が終わると10月から年末まで資材や作業場の片付け、コンテナや反射マルチの洗浄、雨よけビニールの撤去などを行います。また、堆肥をまいて土を整え、剪定や畑の整備を進めます。新たな葡萄棚を建てるために耕作放棄地の木を切りました。これは来年以降の薪として我が家を温めてくれるでしょう(写真左下・たくさんできました！)。そして根はそのままでもよいのですが、掘り起こして燃やす(写真左上)ことで、次の作業をしやすくしています。

また、おにぎりやさんの網倉さん(右上記事)からはお米だけでなくワラもいただいています。寒さに弱い苗木や若木のお布団代わりに、木々の根元にも敷いて乾燥を防ぎます(写真右上・右下)。このワラは約1年で土に還り、よい循環を作り出します。こうして育った果実は再び網倉さんのもとへ。お米と果物、自然の恵みがぐるぐるとつながり、私たちの暮らしの中でめぐりめぐっています。

これから3月上旬までは、澄んだ空気の中で畑作業をしています。晴れた日中は心地よいものの、風が強かったり日没近くになると寒さが身にしみます。それでも、次の収穫に向けて準備を進める大切な季節です。みなさまに、おいしいくだものをお届けできるようがんばります！